

## 議 事 録

名 称	令和5年度第1回深川市総合教育会議
開催日時	令和5年12月25日(月) 開会 午後2時58分/閉会 午後4時33分
場 所	深川市役所 市議会第1委員会室
議 題	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 議題 (1) 不登校児童生徒の状況と対策について (2) ICTを活用した授業の可能性について (3) 令和6年度主要施策(予算への意見) 4. その他 5. 閉会
出席委員	田中市長 吉村教育長 宮田教育委員 轡田教育委員 倉本教育委員 阿部教育委員
欠席委員	なし
説明員	三浦教育部長 佐藤学務課長 久保田生涯学習スポーツ課長 星野学務課長補佐 鈴田学校教育係長 中井スクールソーシャルワーカー 長野 ICT スクールサポーター
事務局	佐藤企画総務部長 高田まち未来推進課長 山崎企画係長 鶴岡企画係主事

会議の概要(発言の趣旨)	
発言者	議題・発言・結果等
佐藤部長	<p>それでは、ただいまから令和5年度第1回深川市総合教育会議を開催いたします。私は、事務局を担当しております企画総務部長の佐藤と申します。議事に入るまでの間、進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。それでは、最初に、田中市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
田中市長	<p>年末の大変お忙しい中、また連日の大雪で大変足元の悪い中お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>この会議は平成27年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、本市においても平成27年に第一回会議を行っております。</p> <p>本年の議題については、記載の通り、3点についてそれぞれから説明をさせていただき、最後には、6年度の主要施策の予算の関係の話をお伺いすることになっておりますので、よろしくお願申し上げます。</p>
佐藤部長	<p>それでは、深川市総合教育会議運営要綱に基づきまして、これからは田中市長が議長として進行させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。</p>
田中市長	<p>それでは、これから私が議長として会議の進行をさせていただきます。</p> <p>この会議につきましましては、自由発言による委員間協議が基本となりますので、活発な議論をお願したいと思います。</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	<p>それではレジュメに従いまして、「3. 議題」の「(1)」、「(2)」について、教育委員会事務局からの資料の説明をお願いいたします。まず初めに、「(1) 不登校児童生徒の状況と対策について」説明をお願いいたします。</p>
佐藤課長	<p>まず私のほうから不登校の状況について国の動きを説明した後、中井スクールソーシャルワーカーから本市の状況と取り組みを説明いたします。</p> <p>はじめに、右上に深川市総合教育会議資料とある資料をご覧ください。こちらは直近の不登校に関する国の動きになります。1. 誰一人取り残されない学びの保証に向けた不登校対策（COCOLO プラン）は、令和3年度実施の児童生徒の問題行動、不登校生徒指導上の諸課題に関する調査において、不登校の小中学生が過去最高の約24万5,000人に達したことから、令和5年3月に策定されました。内容は資料2のとおりですが、説明は省略させていただきます。</p> <p>続いて2. 不登校いじめ緊急対策パッケージは、令和4年度と同調査において、不登校の小中学生が過去最高を更新し、約30万人、いじめの重大事態が923件で同じく過去最高、また、小中高生の自殺が411人などの結果が明らかとなり、誰一人取り残されない学びの保証に向けた取り組みの強化を図るため、令和5年10月にこのプランの前倒しとなる内容で策定されたものです。</p> <p>また、策定時の国からの通知には、総合教育会議の議題として市長及び関係部局間と状況の認識を共有、及び対策の検討などの連携を図るよう記載があり、本教育会議においては、本市においても増加傾向にある不登校にテーマを絞り、認識の共有を図るものです。</p> <p>次に、資料2の緊急対策パッケージについて少し補足をさせていただきます。不登校の緊急対策では、01 不登校の児童生徒全ての学びの場の確保として教育支援センターとありますが、これは適応指導教室の呼称が変わったものになりますので、本市はすでに設置しているものになります。また、02 心の小さなSOSの早期発見について、丸の一つ目に、アプリによる「心の健康観察」の推進とありますが、これはタブレット端末を活用するもので、国は令和6年度に導入を推進しようとしています。</p> <p>最初の資料にお戻りください。下のグラフは、本市の不登校児童生徒数の推移を北海道と比較したのですが、平成30年度に生徒が、令和3年度に児童が北海道を上回り、その後も依然として多い状態が続いております。</p> <p>ここから、詳細について中井スクールソーシャルワーカーよりご説明いたします。</p>
中井SSW	<p>それでは私のほうから、深川市における不登校児童生徒の状況とその対策について説明いたします。私は深川市教育委員会学務課学校教育指導専門員兼スクールソーシャルワーカーとして、今年度4年目を迎えております。その4年間の実態を交えましてお話ししたいと思います。</p> <p>まず、深川市の不登校児童生徒数の推移について、小学校は増加傾向、中学校は多いですが、けれども横ばいということで、全道全国と比べますと1,000人中の割合が全国は31.7人、全道は35.3人で、深川市の不登校出現率が1,000人中31名となっており、大体全国と同じくらいという数字です。それから、不登校の原因ですが、無気力不安が51.8%、生活リズムの乱れが11.4%で、これらが多くなっております。上位二つは本人に係る状況ということですが、子どもに原因を聞いても原因がわからないことも多くなっております。学校や保護者も非常に困惑しているところです。このような状況を踏まえ、先ほど話もありましたように、文部科学省ではCOCOLOプランを策定、道教委は不登校支援ガイドブックを作成し、国道を挙げて不登校の対策を行っています。</p> <p>次に深川市の不登校対策ですが、学校と市教委に分けて考えたいと思います。まず学校では、休みが続いた場合は本人への状況の聞き取り、あるいは家庭訪問などで保護者との連携を図る、あるいは生徒指導部で対応方針を決定して、担任だけではなく組織的に対応しています。さらには、少しでも通いやすい環境づくりということで、深川中学校ではサテライト教室、一巳中学校ではステップアップルームとありますが、教室以外の別室を設定し、それぞれの学校の教師が交代で別室登校の生徒の学習を支援している状況です。この別室登校から自分の教室への登校を促してうまくいっている事例もありますし、タブレット端末を使用して授業の配信を行ったりもしています。</p> <p>一方教育委員会ではどのようなことをやっているかということ、毎月スクールソーシャルワ</p>

会議の概要（発言の趣旨）

発言者	議題・発言・結果等
	<p>一カー連絡会議で情報交換を行っております。スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、健康子ども課の職員、学務課の職員による、詳細な情報交換です。この場合、教育委員会だけでなく、市の福祉部門との連携で家庭を支援するという状況を作っております。ここで情報交換した内容をすぐ各学校に提供し、私のほうからこういう支援方針で行きましょうと助言しております。</p> <p>それから今年度、職員向け不登校支援リーフレットという不登校の対応策をレベルに応じてどのように対応したらいいかをまとめた資料を作成いたしました。また、適応指導教室（しらかば教室）での指導ということで、長期不登校児童生徒を指導員2名で指導しています。場所は総合福祉センター1階で、現在小学生3名、中学生6名が通室中です。この人数は年々増加しており、少し前は2、3人でしたが、今はこのような人数になっております。令和6年度はデ・アイ1階に移転し、より広いスペースでさらにニーズにこたえられる環境となります。このしらかば教室で指導後、学校に復帰した事例は多数あり、今後もニーズに対応していきたいと思っております。一番下に書きましたが、「単に学校復帰を目指すのではなく、将来の社会的自立を目標とする」、これが不登校対応で大事なことで、このしらかば教室から中学卒業後高校に普通に通うことができる生徒さんもおりました。卒業後就職したという事例もあります。単に不登校であるから学校復帰を目指すのではなく、将来の社会的自立を目標とする形で考えております。</p> <p>さて、不登校対策には不登校そのものに対応するだけでなく、楽しい学校づくりと授業改善が大切です。まず行きたいと思う学校づくりについては、現在市内の小・中学校で取り組みが行われています。一つ目に、互いのよさを認め合う学校、学級づくりということで、人間関係づくりに有効なピアサポート、互いに支えあう——ここいいですね、ここ頑張ってるねと互いに声をかける、そういった実践を行っております。それからアンケートですが、これは学級満足度調査ということで、今どのような形で学校で過ごしているのか詳細な調査を行いまして、個々の心情を把握し、指導に生かします。さらには道徳科において、よりよい生き方について考えさせる取り組みを行っております。また二つ目に、児童会生徒会活動や学校行事を活性化することで、自主的な活動や学年集団での活動による相互理解と自己存在感を育成するというを目指しております。そして三つ目に、地域の資源や人材を活用し、地域の人々の生き方を学び、今後の自主性、自己実現に生かすということがなされております。</p> <p>さらに、楽しい学校づくりと授業改善ということで、日々の授業が楽しいものでなければなりません。現在、Fアクティブという合言葉でICTを活用中です。Fアクティブの三つの要素は、深い学び・フレンドリーな学び・深川の学びです。深い学びというのは、一人一人に自己存在感を持たせることで、深く考え、タブレットを使って自分の考えを記入し、それをクラウドの機能を使ってほかの子どもたちに説明していくと、教師はその考えを瞬時に見ることができると、それを評価していく活動です。二つ目のフレンドリーな学びは、コミュニケーション能力の向上につながります。自分の考えを仲間に説明することで自己存在感が高まり、さらに相手の話を聞くことで相互尊重の機運が高まります。タブレットを使うことでこれが瞬時にできるという大きな利点があります。三つ目は深川の学びで、小・中8校での授業の質的向上を図るとともに、深川中、一巳中の中学校区で授業交流を行っております。さらに先日、市長にも来ていただきました納内小学校の教育推進校事業、指定校による公開授業を行っております。このような形で授業を改善し、子どもたちが楽しく学ぶ授業づくりに深川市全体で取り組んでいます。</p> <p>最後に表をご覧くださいなのですが、毎年小学校6年生と中学校3年生を対象としている全国学力学習状況調査ですが、これに児童質問調査がついています。それを抜粋してきました。例えば算数・数学の授業がよくわかる、学校は楽しいという設問ではそう思う・ややそう思うという肯定的な回答が、深川市は全国平均を超えております。非常にいい状態です。ただし、今年度の中学校では少し低下しているのが残念でした。楽しい学校づくりについては、今後も全学校に引き続き働きかけていきたいと思っております。一方で、家で4時間以上ゲームをしている数値は、全国平均よりも大幅に上回っており、逆に家庭学習を1時間以上やっている数値は、全国平均よりかなり下回っているということで、深川市の子どもたちは、ゲームの時間が長く家庭学習の時間が短いという少し残念な結果が出ています。これらの課題につきましては家庭でのことですので、保護者に対して家庭での生活習慣を見直すよう今後も働きかけていかなければなりません。そして下の2行ですが、令和3年度から1人1台の</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	<p>タブレット端末の利用が始まり、授業に積極的に活用するよう働きかけたところ、深川市においては ICT の活用が進み、週一回以上活用というのが全国平均を上回り大幅に増えてきました。さらに ICT は勉強に役立つと答えた子どもが全国平均をはるかに上回り、小学校は 99.0% ということで、非常にいい数字です。ICT の活用が進み、勉強にも役立つことを子どもたちが実感しているということです。このようなことから、今後はさらに ICT を活用した授業で楽しい学校づくりを行っていくことが大切だと考えております。このことが学力の向上はもとより不登校の予防にも役立っていくと考えております。</p> <p>今時代が大きく変わり、子どもたちを取り巻く状況や保護者の価値観も多様になっています。また学校教育も大きく改革していくことが求められます。今後 ICT の活用や多様な学びの場を確保することは、不登校の子どもだけでなく、すべての子どもに必要なことと考えます。深川市で学ぶすべての子どもたちの未来のために、今こそ ICT を核とした楽しい学校づくりに向かいたいと思います。</p> <p>以上で私からの説明を終わります。</p>
田中市長	<p>続いて、「(2) ICT を活用した授業の可能性について」説明をお願いいたします。</p>
佐藤課長	<p>事前配布の資料 3 をご覧ください。GIGA スクール構想により、本市が整備しましたタブレット端末をはじめとする主な ICT 環境をまとめております。</p> <p>次のページをご覧ください。こちらは授業での ICT の活用例で、一斉学習のほか、現在個別学習や共同学習などの活用のほかに、ICT ならではの遠隔事業、オンライン授業だけでなく授業以外にも校外学習や児童生徒会、先ほどお話にありました不登校やいじめの早期発見など、活用の幅が広がっています。</p> <p>ICT の活用については、資料 4 のベネッセが公表している調査では、約 8 割の子どもが、ICT 機器を使う授業は楽しいと答えるなど、その効果が実感されていることがうかがえます。ICT を活用することで、深川の子どもたちに今まで以上の教育をすることが可能となっており、活用が進めば、田舎でも都会に負けない教育ができると考えております。</p> <p>そこで、ICT の活用について、本市の GIGA スクール構想の立ち上げからかかわっていただき、現在は本市の ICT スクールサポーターである長野氏から、ICT を活用した授業の可能性と題して講演形式で認識の共有をしたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。</p>
長野 ICT スクールサポーター	<p>ただいま紹介いただきました、長野と申します。私のほうから、ICT の利活用の状況を、深川市、深川市外のことを含めてお話しさせていただきたいと思っております。</p> <p>最初に、深川市の GIGA スクールを振り返ってみたいと思っております。実は新型コロナウイルスが理由で GIGA スクール構想が打ち立てられたといまだに勘違いされている方がおりますが、コロナで様々な経済活動が止まったのは 2020 年のことで、GIGA スクールは 2019 年の 12 月には構想が発表されており、構想が前倒しに進んだという経過はありますが、コロナ以前から考え方はありました。第二次 PISA ショックとありますが、PISA というのは、パリに事務所のある経済協力開発機構 (OECD) という国際団体で 3 年に 1 回学力テストがあり、2018 年に行われたもので日本が非常に振るわなかったということ、これが契機と言われています。ちなみに第一次がいつだったのかといいますと、2003 年のテストです。この第一次ショックを契機に、脱ゆとりへ方向転換したという現状でございます。</p> <p>私は 2020 年の 8 月から深川市様のお手伝いをさせていただいております。私自身も学ばせていただきながら、深川市の子どもたちのためにお手伝いをしていたところですが、実は深川市のクロームブックは納品完了が 2021 年 3 月で 3 年経っていないのです。3 年経たずここまで進捗したというのは驚異的な話であります。今後は追われる立場になると思っております。最初はみんな手探りでした。今、情報はかなり増えてきております。教員や学校、自治体の情報発信、コミュニティ等々で、様々なノウハウの共有、大人の情報活用能力が充実してきたというところもあるでしょう。同時にノウハウもかなり備蓄されつつあります。企業にとっても大きなビジネスチャンスですから、様々なサービスが増えてきております。GIGA スクールにマッチしたサービスは深川市でもいくつか使われていると思っておりますが、そういったものも増えてきております。また、先行事例が増えているとなれば、その中で効率よく物事を進められるということで、これからは深川をどんどん追従していくような形になると思っております。決して自治体間の順位を争うものではありませんが、現在の状況を維持するために</p>

会議の概要（発言の趣旨）

発言者	議題・発言・結果等
	<p>は、この状況で満足せず、努力を続けていかなければならないと思います。</p> <p>では客観的に見たときに深川はどうでしょうか。繰り返しますが、私は深川市と一緒に学ばせていただいています。ですが、もともとは深川の人間ではありません。外の人間だからこそ、深川市は素晴らしいと思います。いくつかポイントをあげてみました。まず、学校と市教委の敷居が非常に低いです。こんな自治体はそうそうないと思います。市教委と学校の思いが中々かみ合わないところをたくさん見てきました。また、様々な研究会等に私も参加したことがあります。すべての学校が集まってきます。素晴らしいことだと思っています。情報共有ができてきているということです。それがなかなかできていない地域、隣の学校が何をやっているか全く知らない地域も多々見受けられます。そして、情報通信技術支援員さんが常駐しています。これもなかなかすばらしいことです。学校の困りごとを解決するには ICT 支援や情報通信技術支援が必須ですが、なかなか人材がいないといわれています。求人してもなかなか来ないという地域も聞いたことがあります。こういったところは人の縁なのかと思います。それから学びだけでなく校務の ICT 化、いわゆる職員室での仕事も何か所か拝見させていただきました。やはりこの効率化というところが重要なのかと思います。外の人間から客観的に見たときに、今のところ深川市は道内自治体のトップランナーだと確信しております。</p> <p>さて、国の考え方をお話ししたいと思います。国では GIGA スクールは国策と明言しました。予算措置もされました。まだまだこの追い風は続きそうです。まず GIGA スクール端末の話です。2年前、もうすでに端末の維持のことがこれから課題になると気付いている自治体がありました。中には途中でバッテリー交換をしようという契約をした自治体、それから更新計画を最初から考えていた自治体（深川市も更新計画を最初から考えていました）もありますが、そこまで考えていない、というより導入するだけで精一杯という自治体がほとんどだったと感じております。さて今年に入りまして、政府の骨太の方針で、「国策として推進する GIGA スクール構想の 1 人 1 台端末について、公教必須ツールとして、更新を着実に進める」と明言しました。国は GIGA スクール端末の寿命は 5 年くらいと考え、概算要求に明文化されております。そこで、抜粋しましたが、早い自治体は令和 6 年度に更新が見込まれるので、端末更新を計画的に進めていかなければならないということが議論されていたそうです。ちなみに、8 月 30 日の概算要求の中では、利活用計画の策定などにも踏み込まなければならないということが書かれております。最終的にはここまでの内容は盛り込まれなかったようです。そしてこれもつい最近の話で、11 月 29 日の補正予算の中で 2 代目 GIGA 端末の国費予算措置が閣議決定しました。ただ、前回はおそらく直接補助だったはずですが、今回は都道府県ごとに基金を積んでその中で共同調達しようという仕掛けになるようです。実際のスキームはまだ示されていませんので、こういった運用になるのか未知数ではありますが、取り急ぎ 2 代目の端末はなんとかかなりそうだとすることはわかってきました。ただ、3 代目がどうなるのかというのはわからないというところです。</p> <p>さて、これから道内他自治体の状況をお話しさせていただきたいと思います。実は今年度、情報モラルリテラシーや知的財産、著作権・肖像権など、特に著作権の利用に関するトラブルが学校現場で増えてきております。そういった背景もあり、モラルリテラシー等々の研修が非常に増えております。児童生徒だけでなく、教職員や保護者向けに話すこともあります。学校における課題が、端末や、ネットワーク、アプリについてが多かったのが落ち着き、使い手のほうにシフトしてきているのではないかと考えております。これは最初から言われていたことではありますが、ようやくこういったところに踏み込んできたのかと、逆にそういったところに踏み込めていない自治体は危ういかなと個人的には思っております。どうしても導入初期、特に GIGA スクールでクラウドを使い情報共有し、皆で色々なものを作ろうという活動は非常に多いです。その中でいたずらをする子は絶対にいます。これについては、ICT を使っていないにかかわらず普通の授業でも当然起き得ることで、ICT に特化した話ではないかもしれませんが、こういったモラルリテラシーがきちんと醸成されていないと ICT の利活用はなかなか難しいというところでもあります。では深川ではどうかというと、保護者も巻き込んだモラル向上が動き出しております。話を伺うと、もともと通信事業者による児童生徒のモラル指導が実施されていたそうです。私は先週、多度志小学校を訪問させていただき、全学年に情報モラル教室を実施させていただきました。素晴らしいと思ったのは保護者の方もいらっしやったところです。子どもたちだけでなく保護者としてもこういった</p>

会議の概要（発言の趣旨）

発言者	議題・発言・結果等
	<p>ことに気をつけねばならないのか、当然、発達段階に応じて話す内容や書きぶりは違うのですが、どういった年齢層であってもすべきことや考えなきゃいけないことは同じです。そういったところを含めて、保護者理解も当然必要として動き出しているというのは非常にいい傾向だと考えております。</p> <p>では、ICT化を進めていって行き着くところはどこでしょう。一般的にICTのメリットは、学校問わず行政や民間事業者すべてを含めて、距離と時間の短縮だと言われております。まず距離の短縮ですが、地理的な制約を超えて、情報共有、コミュニケーションができることは、最近テレビ会議等々もメジャーになりましたので皆さん実感されていると思います。それからもう一つ、時間の短縮です。学びのロスタイムを集約して、新たな時間を作り出していこうということです。これまでの授業がすべて悪いとは言いませんが、どうしても生徒が待っている時間が少なからずあったはずで、提示する時間や収集する時間、皆で共有する時間や考えあう時間など、それぞれの時間はわずかずつかもかもしれませんが、そういったものを集めていけば必ず空き時間、余剰時間ができるはずで、効率化を進め新たな時間を創出すること、これにはどうしても初期投資が必要です。この初期投資の時間をもったいないからICT化に手をつけないとおっしゃる先生もいます。ですが、深川はもう初期投資といえる活動は完了しています。そうすると、こういった効率化、ロスタイムをどう集約していくのかということに踏み込めるのではないかと思います。ただここでもう一つ気を付けなければならないのは、すべてICT化すればいいという話ではないということです。私自身はハイブリッド化が最終的なのところだと思います。例えば板書を想像してください。多くの教科がある中で、様々なプロセス、例えば数学で数式をどうやって解くか、それを解説しながら書くというのは間違いなく意味があります。一方、単純に教科書を写し書く板書の場合、写し書いている時間は子どもたちが待たなきゃいけません。そういう時間はICTの実物投影機で効率化できるかもしれませんが、そういったロスタイムをできるだけなくしつつ、思考のプロセスなどを示すのは板書のほうがいいとなると、いいところ取りをしていこうということになるかと思えます。</p> <p>では、育成したいのは何でしょう。それは何度も出ております情報活用能力です。「世の中の様々な事象を情報としてその結びつきとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力」ということになるでしょう。言い換えるのであれば、「未来の予測が難しい社会でも生き抜く力」ということになります。VUCAという言葉があるそうなのですが、四つの頭文字をとったものだそうです。変動性、不確実性、複雑性、曖昧性、こういったことが社会の中で非常に多くなってきていると実感されていると思います。その中で生き抜くためには、自ら情報収集したうえで、自ら考え、行動する。そのための情報活用能力、ということになります。</p> <p>何度も繰り返しておりますが、ICTは時間の短縮ができます。となればこの活動は、市町村界を超えてもいいのではないかと思います。当然、様々な調整が必要となるでしょうが、実現可能でしょう。特に、児童生徒同士でも自分の住んでいるエリア外の視点というのはなかなか持ちづらいと思います。私も足寄に住んでいるとき実際そう感じました。ほかの地域等々と結びつける多様性の確保、様々な生き方や様々な考え方をしている人と出会うチャンス、こういった面からも効果が大きいでしょう。そこを考えると、実は大人の情報活用能力も必要だということです。先ほども話しましたが、学校現場の多くが隣の学校でこういった活動をしているかよくわかっていないのが実態です。私も違う地域を回ったとき、ここでこんな取り組みや対応、使い方をしていたという話をよくしますが、そうなんですかと言われてます。深川はそれが本当に少なく、そういう意味でも一歩先を進んでいると確信しております。</p> <p>最後になりますが、キャッチフレーズというわけではありませんが、深川でも学べる、深川でも負けない、深川での学びを誇りに思える子どもたちに育成したいと思っています。私自身故郷に帰らず苦小牧に住んでいる人間なので、人のことを言える義理はないのかもしれませんが、正直、学びの地域格差は現実です。それをICTは緩和できるかもしれませんが、すべては補完できないかもしれませんが、実際に見て、触れ合うことで、緩和できる可能性は高いと思います。これはもはや説明する必要はないと思っております。それから先ほどの深い学びの話です。ICTを活用すれば、さらなる深い学び、コミュニケーション等々の時間を</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	<p>確保できるかもしれません。大人になって複数の問題を解決すること、色々なものを同時並行しつつどうやって効率化し、短時間で仕上げていくかというのは絶対に必要なスキルですよ。ロスタイムを集約して新たな時間を想像することが必要でしょう。私の持論ですが、種をまいて育てて収穫するには時間がかかります。学びも同じです。なかなか効果はすぐに出ないです。時間をかけて丁寧に育成していくこと、これは農業と一緒に私は思っております。それから、大人が子どもにできることはなんですか。可能性や選択肢を増やしてあげるといことです。深川で生まれたから、生まれた場所が違うからというのは、絶対大人として、ふるさとをそこに持つものとして言ってほしくない言葉だと思います。深川に生まれたことに誇りを持てる子どもたちになってほしいです。そのためには、大人も含めて、この深川でもできる、深川でも負けないでやっていけるとい子どもになってほしいと思っております。</p> <p>雑駁ではありましたが、これで私の説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。</p>
田中市長	<p>ただいま中井先生と長野さんのほうから説明がございました。それぞれ委員の皆さんから意見や考え方について一言ずついただきたいと思います。それでは宮田委員からお願いします。</p>
宮田委員	<p>今の ICT の関係については、当初はどうなるのかなというふうに思っていたのですが、お話にもありましたが委員会と学校等が連絡を取りながら進めて、本当に驚異的なスピードで各学校出揃ったなど感じております。ただ ICT だけに頼るのではなく、先ほどもありましたけれどもハイブリッド的な考え方、両方併用しながら上手に使いまわしていく、そんなことがこれからの一つの課題ではないかなと思いました。</p>
田中市長	<p>轡田委員お願いします。</p>
轡田委員	<p>深川市で電子黒板を導入したのは非常に速かったように記憶しております。電子黒板の活用から ICT、生徒が 1 人ずつタブレットを持つまでが非常に速かったものですから一時は心配したのですが、学校訪問の際、指導される先生方も児童生徒も非常に上手に活用して、特に複式学級が増えてまいりましたので、片方で先生が指導している間に、子どもたちが相談しあいながら ICT を活用している姿がよくみられました。素晴らしいと思って見ておりました。もう一つ、だんだん時代が変わってきて、この ICT の端末更新というのが 5 年ぐらいで変わってくるということがわかりますし、児童数も減ってきてはいるのですが、これを進めていって、なおかつ板書によって学習する部分でも、先生方には形を変えて、タイムロスというものを補っていくような形で頑張してほしいなという思いをしながら学校を見学させていただきました。</p> <p>深川市が道内でも非常に先進的であることが目で見えてよくわかりましたし、それを進めていって子どもがより良い環境で学習できること、前段の不登校の件もその ICT で友達同士のコミュニケーションをうまくつなげていくことができれば、子どもが孤立することが少なくなるのではないかなと、そんな思いをしております。</p>
田中市長	<p>倉本委員お願いします。</p>
倉本委員	<p>先ほど二人の委員さんがおっしゃったように、コロナ禍の中でも、学校に行けなくても、家庭で授業を受けることができるのはすばらしいですし、環境が整ってみんな平等に授業を受けられることは本当に進んだなと思います。同時に、ほかの面が遅れてはいないだろうかということ、私の勝手な考えですけど、ゲームをして読書の時間がないとか、家族での話し合いの場がないとか、そういう昔から続いてきた時間を大事にすることが失われてきているのではないかと、そういうことを見直すことも必要ではないかとも思っております。</p>
田中市長	<p>阿部委員お願いします。</p>
阿部委員	<p>まず、ちょっと論点は違うかもしれないのですが、不登校の子に対しての対処をどうしているかというのはよくわかったのですが、この不登校の子ども数の数自体が急激に増えている原因がわかれば。</p> <p>学校に来られない子どもでも、対応はすごく充実しているというのが今日伝わってきました。その対応の中で、学校に行けなくても、自分は学校とかかわりを持っていると体感できる、</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	<p>ICT もまた様々なところで活用されているというのがわかりました。ただ、今主体的で対話的で深い学びと言われているのに、人とかかわらないでそれができるかというやはり難しいので、少しでも多くの人と関わられるような状況を作っていく、提供していくというのが大切なことだと思いました。</p> <p>あともう一個、この ICT に関して、近隣市町村とか、深川市内の学校でも、学校に通っている生徒はあそこの学校でこんなことをやっているというのは全然わからないことですが、自分たちが進んでいることをやっているというのはわかっていないので、提供する大人たち、先生たちですね、お互いコミュニケーションをとりながら、学校の中でも、興味を持てるような授業をできている先生と、ちょっと使いこなすので精いっぱいという先生と、その辺の情報共有をしながら、深川の学校教育が進展するのが大切だと思ったので、これからもどんどん邁進していただけたらと思います。</p>
田中市長	吉村教育長お願いします。
吉村教育長	<p>まず不登校の関係ですけれども、原因がわからないで不登校になっているということがあって、原因がわかれば解決するのかということでもないでしょうけれど、不登校になってしまうというのはどうしようもないことなので、何とか学校における道筋を我々がつけてあげるといことで、市ではしらかば教室を作っていますし、それぞれの中学校でも、ステップを踏んだ通い方ができるような工夫をしているので、少しでも不登校がなくなればいいなどは思っていますけれどもなかなか難しい課題ではあるなど。今度新しくデ・アイに移動して広いしらかば教室ができますので、さらに受け入れを増やして、少しでも学校に通えるような指導をしていければと思っています。</p> <p>あと ICT の関係は、深川市が先進地域であるということのを改めて心に刻んで、今後さらにどういう活用が子どものためになるのかということのを、教育委員会、学校、ICT 推進委員会でしっかりと考えて、ICT の真の使い方というか、そこを目指して活動できればと思っています。まだまだ発展途中ということだと思しますので、長野さんはじめ ICT 支援員の人の力もより一層借りながら進めていければと思っていますので、よろしくお願いをしたいと思います。</p>
田中市長	では、問い合わせのあったところについてお答えいただければと思います。
中井 SSW	<p>先ほどの阿部委員の質問にお答えしたいと思います。</p> <p>不登校ですが、これは全国的な状況なんですよね。今は本当に価値観が多様化していて、例えば、今日学校休みたいなら休めばというような、そういう保護者も結構増えてきて、どんどん長期にわたってくるというケースがあります。この数字だけでなく一件一件に対してどういうふうに対応していくか、少しでもステップアップするように声をかけ、長期不登校に至らないということがまず大事だと思います。</p> <p>今の数字の中にやはり長期不登校、もう何カ月も通えてないというお子さんもいます。そういうお子さんに保護者も心配になって、この先ずっと引きこもりなのだろうかとか、そういうことを考えがちですけれども、私からは、大丈夫ですよ、今こうであっても、将来的にこういうケースがあります、ということで励ましています。実際に、中学校はほとんど通えていなくても、高校に行ったらリセットしていくというケースが非常に多くて、特に深川東高校の指導は素晴らしく、一人一人のお子さんをしっかりケアして、卒業まで面倒を見ていただいている。小規模高等学校の良さというのはあるのだなど実感しています。したがって、原因を追究するよりも、今どうすべきかを皆さんと一緒に考えて、必要な支援を行っていくということが重要かもしれません。</p> <p>それからもう一つ、主体的、対話的な学びが ICT の中ではどうなのか。打ち込んで何もしゃべらないで授業を進めるイメージがありますが、タブレットを持ちながら自分の考えを説明する、あるいは電子黒板の前に出て、自分で打ち込んだことはこうですというふうに発表することで、対人間というものもタブレットでつくのではないかと考えています。ただ単に宿題をやってこいとか、勉強時間を長くしなさいというよりも、自分がちゃんと、これ面白いなど、やってみようかなと、学習意欲があれば自然に様々なことに向かうと思います。子どもは自分の考えが他から認められると嬉しそうにしています。コミュニケーション的にも非常に有効なツールだと考えております。そのような考えを持ちまして、主体的、対話的な</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	学びにもタブレットを活用していきたいと思えます。以上です。
阿部委員	<p>不登校になった原因はしょうがないのですよね。各家庭の事情もあると思えますし、今日行きたくないのだというのもよくわかるのですけれど、やはり一人にしないというのが大事だと思うので、しらかば教室の先生も自分のことを見てくれていて、保護者の方にはソーシャルワーカーが声をかけて置き去りにしないっていうのが大事だと思うので、それは継続にすごく意味のあることなので、お願いしたいと思えます。</p> <p>あわせて、タブレットで勉強する中で、録画とかができるのかはわかりませんが、しらかば教室の中でタブレットを使って学習したときに、自分の教室に行っていたら、色々な方法や考え方があるという勉強になる。録画とかができれば、しらかば教室で勉強したときに、同級生の子たちはこんなことをしているとか、こういう考え方もあるといったことがわかれば、それが逆にストレスになるかもしれませんが、多様な学びにつながるかなと、自分だけでなく多くの人に関わって、見てくれているという安心感の中勉強できるかと思ったので、誰一人置いていかないというのはとても大事なことなのでこのまま進めてもらえたらと思えます。以上です。</p>
田中市長	長野さん。
長野 ICT スクールサポーター	<p>私のほうからゲームの時間に関する補足説明をしたいと思えます。私は情報モラル教室の講師をやっています、札幌、苫小牧、胆振管内それから帯広にも行ったのですけれど、北海道は地域問わず、ゲームをやっている時間は長いですね。地域特性なのか地理的特性なのかわかりませんが、どの地域も全国学力学習調査の平均よりはるかにやっている傾向がある。他方、生活の中で何が大事なのか五つぐらい聞いてみると、ゲームという答えは結構少ない。ゲームに命をかけているっていうような子は少ないけれども、やっている時間は長い。これはこれから解決していかなくちゃならない課題なのかなとは感じていて、深川以外でも実は状況は同じという話です。</p> <p>それから、これはどう判断したらよいのか学校現場で悩んだ案件がプログラミングです。プログラミングでゲームを作ると。その子は試行錯誤して、こんな風に動かしたらいいだろうと考えてプログラミングをするのですが、はたから見るとゲームで遊んでいるように見えます。非常に判断が難しいなと思えます。確かに遊ぶ要素もあるけれども、そこに試行錯誤、プログラミング的要素というのがあります。これからこういった事例は増えてくるのではと思えます。それを遊びと判断するのか学びの一環とするのかの判断がなかなか難しいところ。そういう事例もあるということをお知らせしておきます。以上です。</p>
田中市長	<p>ほかに何か質疑等ございますか。</p> <p>なければ、ここで中井専門員と長野スクールサポーターについては退席します。どうもありがとうございました。</p>
田中市長	それでは次の議題の「(3) 令和6年度主要施策について」に進みます。まず宮田委員からお願いいたします。
宮田委員	<p>それでは、私から学力向上対策、学校教育の充実、そして学校給食費の負担軽減について意見を述べさせていただきます。</p> <p>学力向上対策、児童生徒の学力向上を目的に実施している学習サポートプログラム事業については、ボランティア講師の高齢化による人手不足の状況から、令和6年度は小中連携の観点を盛り込み、新たに中学生をボランティア講師に加える予定です。また、地元の深川西高校、東高校に加え、令和5年度からはクラーク記念国際高等学校の生徒にも参加をいただき、小学生と交流することで、小学生が地元高校への関心を高める貴重な機会にもなっていると思えますので、引き続き予算措置をよろしくお願ひします。</p> <p>続きまして、学校教育の充実になります。現在、学校におきましては、多様な児童生徒が同じ校舎同じ学級で学ぶインクルーシブ教育が定着しています。一方、昨年度の文科省の調査によると、小中学校の通常学級において発達障害と推測される児童生徒が8.8%在籍しているとされ、35人学級ならば3人が該当する数値で、すべての通常学級に特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍している可能性があることと示されました。本市においても介助等が必要な児童生徒は増加傾向にあり、インクルーシブ教育を推進するためのマンパワーが</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	<p>必要となっています。現在配置している特別支援教育支援員は、児童生徒の安全確保や、学習環境、学力向上のための支援及び介助に加え、支援が必要な児童生徒への理解促進を図るために必要な存在であり、支援等が必要な児童生徒の増加に伴う拡充が必要となっております。なお、令和5年度につきましては公募いたしましても応募がなく、1人が欠員している状況であることから、人員確保に向けた条件などの検討が必要と考えますので、今後もよろしく申し上げます。</p> <p>続きまして学校給食費の負担軽減、学校給食費無償化について、私は以前から、子どもや保護者に、深川市が子どもの健やかな成長を願い、見守っていることを伝える施策として、給食費の完全無償化が望ましいと考えております。田中市長は段階的な学校給食の無償化を公約に掲げ、令和5年度は4月から7月の期間において実施いただきましたことは大変大きな一歩と感じておりますし、お礼を申し上げるところでございます。令和6年度におきましては、物価高が続く、北空知圏学校給食組合において、給食費の改定が予定されていることもうかがっており、子育て世代の負担増が懸念されています。また、北空知各町においては給食費の完全無償化が実施されていることから、深川市も給食費の完全無償化が望まれます。</p> <p>以上、私からこの3点を意見として申し上げます。よろしく申し上げます。</p>
田中市長	<p>ただいま宮田委員さんから意見がございましたが、このことについてほかに意見はございますか。</p> <p>なければ次は阿部委員さん申し上げます。</p>
阿部委員	<p>私のほうからは3番、教育の情報化への対応と、4番、学校施設設備の整備についてお願いしたいと思います。</p> <p>まず3番、学校の情報化への対応ですが、子どもがこれから予測の難しい未来を生きていく力を育むためには、先ほどもありましたけれども情報活用能力の育成や学習指導要領に応じた主体的、対話的で深い学びの実践が必要とされています。これらに対応した学びに効果的に取り組むためには、タブレット端末や電子黒板、指導者用デジタル教科書のほか、デジタルドリルや授業支援システムといったICT環境の整備のほか、机にタブレットを置き、ノートや筆箱などを置いていくと、やはり狭くなってくるので、机の新JIS規格への更新が必要と考えます。また、教育の情報化の推進には、学校現場でのICT利活用への支援として、引き続きICT支援員の配置を強く望むところであり、外部人材による研修などの教職員への支援体制の継続が必要です。さらに、校務での情報化と働き方改革の観点から、広く普及が進んでいる統合型校務支援システムの導入が早急に必要だと考えています。ほかの使っていたところからお子さんと来られた先生は、深川の学校で使っていないことで多少の不便を感じるところもあるようなので、早急な導入をお願いしたいと思います。</p> <p>次、4番、学校施設設備の整備について、お願い申し上げたいと思います。令和4年度から4年計画でエアコン設置を進めていただいております、特に今年の猛暑の中で、導入済みの学校では、児童も教員も大変喜んでおりましたので、そのことを改めてお伝えするとともにお礼を申し上げます。未導入の学校については、来年以降も猛暑が危惧されますので、令和6年度は当初計画の音江小学校に加えて、令和7年度に計画されている中学校2校の前倒しが必要と考えます。夏休みの日程を増やすという指針もありますけれども、深川はそのまま50日間ということになりますので、中学校に今年通っていた生徒さんからも、小学校にあったので中学校に行って大変つらいという言葉をいただいておりますので、ぜひとも前倒しでお願いしたいところでもあります。また、老朽化している屋内運動場では、雨漏りにより入学式などの行事に支障をきたすおそれや、令和3年度に床のささくれにより児童生徒がけがをする事故が発生しています。学校は、夜間の学校開放による一般市民の利用や災害時の指定避難所でもあることから、適切なメンテナンスが必要になります。令和6年度は、一巳中学校の屋内運動場の屋上防水、床面の塗り替えは北新小学校での対応が必要な状況となっております。また、照明器具について、水銀灯や蛍光灯の生産が終了されること、電気料金削減や環境への配慮のためにも、学校施設における照明のLED化は早急に取り組むべき事業であると考えますので、お願い申し上げます。以上です。</p>
田中市長	<p>ほかの皆さんからの意見がなければ、轡田委員さんお願いいたします。</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
轡田委員	<p>私のほうからは社会教育、芸術・文化スポーツの振興について申し上げます。</p> <p>その中のスポーツ施設の整備についてお願いをしたいと思います。総合体育館などのスポーツ施設は老朽化により修繕や更新が必要な部分が多数ありますことから、各施設を安心安全快適に利用できるよう、計画的な更新が必要です。そのうち、今回具体的にお示しするのは5つの施設です。</p> <p>1番目に、総合体育館についてです。建築から30年以上が経過し、メイン・サブアリーナの床面の老朽化により、凸凹や破損が点在しております。協議面や安全面からも早急な改修が必要であるほか、増築した武道場のボイラーが経年により不作動が頻発しており、早急に対応しなければ、施設開館にも影響が出る恐れが高まります。</p> <p>2番目に、陸上競技場についてです。市の陸上競技会からも要望書が提出されておりますが、高い場所にあります写真判定等の上り下りのための安全対策や、陸上競技場の芝が経年で隆起しているため、第三種公認陸上競技場としての要件を満たすための対策を求められている状況にあります。また、競技場周辺のランニングコースも路面が痛み凸凹も目立っているなど、競技者から一般の方まで、施設を利用するすべての方々の安全性や機能性を高めるための処置が必要です。</p> <p>3番目に、温水プールについてです。平成12年度にオープンして以来、現在は指定管理者により安全な施設運営が行われておりますが、現在空調急騰の配管の抜本的更新が行われていないため、経年劣化による破損水漏れが頻発しております。指定管理者により都度小破修繕対応をしていただいておりますが、発生件数も増加しており、指定管理者の負担も小さくありません。また現在は小破修繕にとどまっておりますが、全体的にさび付いている各種配管や経年により機能が著しく低下しているシャワーなどの衛生設備は、いつ大規模の破損が生じてもおかしくない状況であり、そうなった場合、施設を閉じるだけでなく、小学校のプール授業や、指定管理者の経営にも多大な影響を及ぼすことから、そのような事態にならないよう、計画的な設備更新が必要です。また、屋上防水機能も劣化しておりますので、建物全体への影響が広がらないうちに計画的な修繕が必要です。</p> <p>4番目として、桜山パワーアップロードについてです。桜山パワーアップロードは、令和元年度から3年度の3か年にかけて大規模改修を実施していただき、スポーツ合宿や市民の散歩コースとして安心して利用できるようになりました。しかし、自然素材を使った施設の不安や積雪による劣化は避けられないほか、近年では老木からの枝の落下、ネズミやキツネなど野生動物がコースを挟むなどの状況がみられ、せっかく整備したコースのところどころに穴が開いている状況も見受けられます。現在ではパークゴルフコースの管理項目の一部として、落ち葉や排水清掃が含まれていますが、少しでも長く良いコンディションを保つために、コースの維持には専門的、継続的な管理が必要と考えられます。</p> <p>最後に5番目として、市内パークゴルフ場についてです。昨今猛暑の影響により、特にリバーサイドパークゴルフ場の散水が現在の設備では間に合わず、芝への影響が大きいとの声が利用者やパークゴルフ協会から届いている状況です。財源の関係など対策が難しい面もあると思いますが、関係所管と協議の上、何らかの散水対策の充実が必要と考えます。私からは以上でございます。</p>
田中市長	それでは次に倉本委員さんお願いします。
倉本委員	<p>続きまして、私のほうからは社会教育、芸術・文化、スポーツの振興に係る意見を述べさせていただきます。</p> <p>初めに、社会教育施設の整備についてですが、建築後40年以上を経過している中央公民館につきましては、深川駅西側に生涯学習機能、交流機能、交通機能を有する複合施設として整備することとして基本計画が策定されました。この件につきましては以前から市民の関心が高まっております。今後具体的な設計が行われていきますけれども、生涯学習機能を担うために必要な施設整備と複合する施設として、設置する目的に沿ったより良い管理方法につきまして、関係所管との検討が必要と考えます。市民の関心が高い中央公民館ですので、市民の目線で計画を立てていただければと要望させていただきます。</p> <p>次に、文化交流ホール施設の設備改修についてです。建設後19年以上が経過し、施設を安心して利用できるよう、計画的なメンテナンスと維持管理が必要と考えます。近隣では、令和3年に旭川市民文化会館小ホールで約300キログラムの緞帳が落下する事故が発生し</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	<p>ておりますことから、特に緞帳を含めた巨大な吊り物装置の点検、改修が必要と考えます。大きな事故が起こる前にぜひお願いしたいと思います。</p> <p>次に、合宿招致の推進についてです。本市における合宿を推進するため、これまで同様積極的な招致活動の継続だけでなく、トレーニング施設機能や宿舍の滞在環境をより一層充実し、合宿地としての魅力を向上させるための取組が必要と考えます。</p> <p>次に芸術文化活動の推進についてです。市民がすぐれた芸術文化に触れる機会を増やすため、アウトリーチ授業と各種公演事業の拡充や、市民自らが企画・招聘する機会を後押しするための予算措置の継続は必要と考えます。子どもたちのアウトリーチ授業を受けた後の輝かしい表情を考えますと、これは本当に重要なことだと考えております。国からの学習・既成事業も先細りしている傾向もみられることから、その財源確保には苦心されていると思いますが、心豊かに充実した人生を送るためにも、若い世代から優れた芸術文化に触れることは大変重要と考えておりますので、そのための措置が必要と考えます。</p> <p>最後に、社会教育施設全般の照明のLED化です。利用としてはさきに述べられております学校施設のLED化と同様でございますが、従来の照明器具が入手できず、不点灯箇所が発生している施設が複数ございますので、早急な対策を求めるものでございます。私からは以上になります。よろしくお願いたします。</p>
田中市長	<p>一通りの意見をいただきましたが、ほかに意見はございませんでしょうか。</p> <p>なければ意見のありました教育予算について私のほうから若干コメントさせていただきたいと思っております。</p> <p>まず学力向上対策につきましては、最大限の継続的な予算措置についてはしっかりと確保していきたくて考えております。</p> <p>2のインクルーシブ教育について、特に教育支援の配置については、適正な配置となるように最大限の努力をしていきたくて思いますし、今1名欠員というところで、なかなか人が集まらないという状況もなんとかその解決策についても併せて検討していきたくて思います。</p> <p>3の教育の情報化については、先ほどの話にもありました通り先進的な部分をしっかりと継続する部分、それと統合型の校務支援システムについては十分検討させていただきたいと思っております。</p> <p>学校施設設備の整備につきましては、特に最後の部分ですが、LED化については今、学校に限らず市内の公共施設すべてに、いわゆるリース方式を活用し年度内に進めたいと思っております。それ以外の改修事項については、順次必要な部分を進めていきたくて思っております。</p> <p>5の学校給食費の負担減、記載もありますが値上げがありまして、市に与える影響は900万円ほどあり、これまで4,500万円確保すれば1年分の給食費の無償化が可能でしたが、5,400万円という数字をどれだけ拡充できるかということについては、一度無償化した後やっぱりやめたとはならないので、財政状況の厳しい中で確実に財源を確保する、このことについて十分検討させていただきたいと思っております。</p> <p>社会教育の関係ですが、スポーツ施設は本当にたくさんの施設がありまして、どれも重要などころばかりですので、私も一通りすべて拝見させていただきました。どのような状況にあるかというの理解しているつもりですので、その中で優先順位をつけながら進めたいと思っております。またパークゴルフ場の散水対策については喫緊な課題ということで取り組みたいですと考えております。</p> <p>社会教育施設の整備については、先ほどもお話しさせていただいた通りですが、中央公民館、いわゆる複合施設の建設事業については、十分に関係者、特に若い方々が集まれるような施設にしたいという思いもございまして、ぜひ市民の皆さんの意見を伺いながら、より良い施設にしていきたくて思っておりますので、各委員の皆さんからも様々な意見を賜ればと思っております。み・らいの改修については、吊り物、特に音響反射板は非常に重量物ということで、危険性も十分に認識はしておりますが、莫大な金額がかかるということで、ご指摘の通り計画的な修繕が必要なものと認識しております。</p> <p>合宿招致等については、今年が過去最大の宿泊数ということになっておりますので、さらに充実させていければと思っております。</p> <p>芸術文化の推進についても、ご指摘の通り進めさせていただきたいと思っておりますが、このこ</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
	<p>とについても、色々な事業を進めることで深川に潤いが生まれるということは認識させていただいておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>最後に施設照明の LED 化は先にお話しさせていただいたとおり、来年度中にすべての LED 化を進めていきたいという風に考えておりますので、社会教育施設全般についても同様ということでご理解いただければと思います。</p> <p>私のほうからは以上でございます。ほかに何か意見はありますか。</p>
阿部委員	<p>学校給食費を、近隣のところが無償になっているので先行概念があるかもしれないのですが、保育料のように市で何%分負担しますというふうにはならないのでしょうか。</p>
田中市長	<p>様々な考え方があるのですが、今年も当初は全体で減額をしようという考えもあったのですが、最終的には最初の4カ月間を無償ということにしたのですが、給食費の徴収など、事務的な手続き上のことも併せて検討させてもらっているのです。トータルで保護者の負担をいかに軽減していくかという視点で考えさせていただければ。その点についてはご理解をお願いします。</p> <p>ほかにございませんか。</p>
	(特になし)
田中市長	<p>なければ、以上を持ちまして令和5年度第1回深川市総合教育会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。</p>